

令和 6 年度
事業報告書

(自) 令和 6 年 4 月 1 日

(至) 令和 7 年 3 月 31 日

社会福祉法人 南丹市社会福祉協議会

目 次

総 括	1
会員の状況	2
法人運営の状況	3
地域支援の部	10
相談支援の部	13
生活支援の部	27

【巻末】 法人運営理念・サービス精神・職員心得

総 括

本年度も地域の多様な福祉ニーズに応えるべく、地域支援、相談支援の両面から、きめ細やかで実効性のある事業を展開してきました。

地域支援の部では、見守りネットワークやふれあいサロンを通じた居場所づくり、移動・外出支援、地域福祉推進体制の整備などを行い、住民主体の支え合い活動の活性化と共助の基盤づくりに尽力しました。特に「みんなでなんたんグランプリ」や「ぼらんぷらりー」など世代を超えた参加促進の工夫に高評価をいただきました。

相談支援の部では、生活困窮者への支援や権利擁護、高齢者・障がい者・児童に向けた相談・支援体制の強化を図りました。成年後見制度への移行支援、生活相談会、フードパントリー・物品バンクを通じた生活支援などにより、個別の困りごとに寄り添う伴走支援を継続しました。また、包括支援センターでは地域ケア会議や出前講座、認知症啓発活動などを積極的に展開し、住民との接点を深めました。

両部門の連携によって、物価高騰などの新たな社会課題にも適時・柔軟に対応し、地域福祉を支える多機関連携の基盤を強化することができました。一方で、ボランティアの後継者不足や支援活動人材確保、公的制度間の隙間への対応といった継続的な課題も明らかになっており、次年度以降も引き続きこれらの解決に向けた取組の強化が求められます。

生活支援の部では、各事業所において業務体制の見直しや ICT 導入、人材育成を充実することで、サービスの質・効率性両面の向上を図りました。訪問介護では、終末期ケアの充実や安定した利用の確保が進む一方、一部事業所では利用者減少等による経営悪化の課題も浮上しました。通所介護・小規模多機能型介護では、専門職の配置や施設・設備改修によって利用者満足度も向上し、下半期は稼働率も回復傾向にあります。児童発達支援や就労支援では、地域連携や多様な活動を通じて、社会参加の促進、個別支援の強化を実施しました。今後は、より多様なニーズに応える柔軟な支援体制の構築と、職員の専門性向上に継続して取り組むことで、持続可能な事業運営を目指します。

本年度の取り組みを通じて、地域住民一人ひとりが主役となる「共に支え合うまちづくり」の実現に一步近づくことができたと考えています。今後も地域福祉推進において、多様な主体と手を携えながら、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会の構築に貢献してまいります。

目 次

総 括	1
会員の状況	2
法人運営の状況	3
地域支援の部	10
相談支援の部	13
生活支援の部	27

【巻末】 法人運営理念・サービス精神・職員心得

総 括

本年度も地域の多様な福祉ニーズに応えるべく、地域支援、相談支援の両面から、きめ細やかで実効性のある事業を展開してきました。

地域支援の部では、見守りネットワークやふれあいサロンを通じた居場所づくり、移動・外出支援、地域福祉推進体制の整備などを行い、住民主体の支え合い活動の活性化と共助の基盤づくりに尽力しました。特に「みんなでなんたんグランプリ」や「ぼらんぷらりー」など世代を超えた参加促進の工夫に高評価をいただきました。

相談支援の部では、生活困窮者への支援や権利擁護、高齢者・障がい者・児童に向けた相談・支援体制の強化を図りました。成年後見制度への移行支援、生活相談会、フードパントリー・物品バンクを通じた生活支援などにより、個別の困りごとに寄り添う伴走支援を継続しました。また、包括支援センターでは地域ケア会議や出前講座、認知症啓発活動などを積極的に展開し、住民との接点を深めました。

両部門の連携によって、物価高騰などの新たな社会課題にも適時・柔軟に対応し、地域福祉を支える多機関連携の基盤を強化することができました。一方で、ボランティアの後継者不足や支援活動人材確保、公的制度間の隙間への対応といった継続的な課題も明らかになっており、次年度以降も引き続きこれらの解決に向けた取組の強化が求められます。

生活支援の部では、各事業所において業務体制の見直しや ICT 導入、人材育成を充実することで、サービスの質・効率性両面の向上を図りました。訪問介護では、終末期ケアの充実や安定した利用の確保が進む一方、一部事業所では利用者減少等による経営悪化の課題も浮上しました。通所介護・小規模多機能型介護では、専門職の配置や施設・設備改修によって利用者満足度も向上し、下半期は稼働率も回復傾向にあります。児童発達支援や就労支援では、地域連携や多様な活動を通じて、社会参加の促進、個別支援の強化を実施しました。今後は、より多様なニーズに応える柔軟な支援体制の構築と、職員の専門性向上に継続して取り組むことで、持続可能な事業運営を目指します。

本年度の取り組みを通じて、地域住民一人ひとりが主役となる「共に支え合うまちづくり」の実現に一步近づくことができたと考えています。今後も地域福祉推進において、多様な主体と手を携えながら、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会の構築に貢献してまいります。

会員の状況

令和7 年 3 月 31日 現在

事務所	世帯数	普通会員		特別会員		世帯加入率 普通・特別計
		件数	金 額	件数	金 額	
本 所	—	0	0	22	55,000	—
園部事務所	7,040	2,292	2,292,000	17	105,200	32.8 %
八木事務所	3,048	1,458	1,457,500	14	35,000	48.3 %
日吉事務所	2,064	865	864,500	11	26,000	42.4 %
美山事務所	1,703	934	932,500	16	39,000	55.8 %
合 計	13,855	5,549	5,546,500	80	260,200	40.6 %

事務所	賛助会員		ふるさと会員		本年度合計金額
	件数	金 額	件数	金 額	
本 所	11	110,000	0	0	165,000
園部事務所	40	290,000	0	0	2,687,200
八木事務所	9	64,000	0	0	1,556,500
日吉事務所	12	75,000	0	0	965,500
美山事務所	10	70,000	0	0	1,041,500
合 計	82	609,000	0	0	6,415,700

(参考) 前年度対比

事務所	普通・特別会費 前年度対比		会費合計 前年度対比	
	前年度金額	増 減	前年度金額	増 減
本 所	26,000	29,000	146,000	19,000
園部事務所	2,501,426	△ 104,226	2,721,426	△ 34,226
八木事務所	1,611,000	△ 118,500	1,647,000	△ 90,500
日吉事務所	1,024,000	△ 133,500	1,093,000	△ 127,500
美山事務所	1,016,000	△ 44,500	1,150,500	△ 109,000
合 計	6,178,426	△ 371,726	6,757,926	△ 342,226

(参考) 過去5か年推移

年 度	令和2年	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
会費合計額	7,660,500	7,345,700	7,056,500	6,757,926	6,415,700

令和 6 年度 法人運営の状況

＜理事会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	6月4日 (火)	日吉生涯学習センター	理事 11 監事 2 その他 4	① 規則・規程の改正 ② 令和5年度 事業報告(案)の承認 ③ 令和5年度 決算(案)の承認 ④ 委員の交代同意 ⑤ 役員(理事)選任候補者の推薦 ⑥ 評議員選任候補者の推薦 ⑦ 評議員選任・解任委員会の招集 ⑧ 評議員会の招集
第 2 回	8月16日 (金)	書面決議	理事 15 監事 2	① 評議員選任候補者の推薦 ② 評議員選任・解任委員会の招集
第 3 回	3月12日 (水)	書面決議	理事 15 監事 2	① 規則・規程の改正 ② 定款の変更
第 4 回	3月27日 (木)	南丹市園部文化会館	理事 14 監事 2 その他 4	① 規則・規程の改正 ② 令和6年度 第1次補正予算(案) ③ 令和7年度 事業計画(案)の同意 ④ 令和7年度 収支予算(案)の同意 ⑤ 委員選任の同意 ⑥ 職員重要人事の同意 ⑦ 評議員会の招集

＜評議員会の開催状況＞

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	6月21日 (金) ※令和5年度会計に関する 定時評議員会	日吉生涯学習センター	評議員 14 理事 4 監事 2	① 令和5年度 事業報告(案)の承認 ② 令和5年度 決算(案)の承認 ③ 役員(理事)の選任
第 2 回	3月27日 (木)	南丹市園部文化会館	評議員 15 理事 3 監事 2	① 定款の変更 ② 令和6年度 第1次補正予算(案) ③ 令和7年度 事業計画(案)の承認 ④ 令和7年度 収支予算(案)の承認

<監事監査の実施状況>

回	開催日	場所	出席	監査事項・指摘事項
第 1 回	5月24日 (金)	日吉事務所 相談室	監事 2 理事 2	① 令和5年度 事業(法人運営・実施事業等) ② 令和5年度 決算(会計・経理等) ※適正と認める
第 2 回	11月25日 (月)	日吉事務所 相談室	監事 2 理事 2	① 令和6年度 上半期事業(法人運営・実施事業等) ② 令和6年度 上半期会計(会計・経理等) ※適正と認める

<理事会地域支援部会の開催状況>

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月16日 (木)	日吉事務所 相談室	委員 5 その他 3	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和5年度 事業報告(案) ③ 令和5年度 決算 (案)
第 2 回	11月27日 (水)	日吉事務所 相談室	委員 5 その他 3	① 令和6年度上半期事業進捗報告 ② 理事会・評議員会 決議の省略(書面決議) ③ 業務組織・機構の一部変更について
第 3 回	3月5日 (水)	日吉事務所 相談室	委員 5 その他 3	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和7年度 事業計画(案) ③ 令和7年度 収支予算(案)

<理事会相談支援部会の開催状況>

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月17日 (金)	日吉事務所 相談室	委員 4 その他 4	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和5年度 事業報告(案) ③ 令和5年度 決算 (案)
第 2 回	11月29日 (金)	日吉事務所 相談室	委員 5 その他 2	① 令和6年度上半期事業進捗報告 ② 理事会・評議員会 決議の省略(書面決議) ③ 業務組織・機構の一部変更について
第 3 回	3月3日 (月)	日吉事務所 相談室	委員 6 その他 4	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和7年度 事業計画(案) ③ 令和7年度 収支予算(案)

<理事会生活支援部会の開催状況>

回	開催日	場所	出席	協議事項
第 1 回	5月16日 (木)	日吉事務所 相談室	委員 6 その他 1	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和5年度 事業報告(案) ③ 令和5年度 決算 (案)
第 2 回	12月3日 (火)	日吉事務所 相談室	委員 4 その他 2	① 令和6年度上半期事業進捗報告 ② 理事会・評議員会 決議の省略(書面決議) ③ 業務組織・機構の一部変更について
第 3 回	3月4日 (火)	日吉事務所 相談室	委員 2 その他 2	① 理事会・評議員会審議事項 ② 令和7年度 事業計画(案) ③ 令和7年度 収支予算(案)

〈正・副会長会の開催状況〉

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	4月11日 (木)	本 所	役員会等スケジュールについて 令和7年新卒者向け採用試験の実施について 八木デイサービスセンター大規模修繕工事について 他
第 2 回	5月9日 (木)	本 所	理事会・評議員会審議事項について 令和5年度 収支決算 (速報) 職員全体研修について 他
第 3 回	5月27日 (月)	日吉事務所 相談室	南丹市社協 設立20周年の取組について 令和6年度 賞与基準支給率について 社協賛助会費 協力依頼訪問について 他
第 4 回	7月11日 (木)	日吉事務所 相談室	八木デイサービスセンター改修工事 入札結果について 生活福祉資金特例貸付フォローアップ相談・支援事業について 評議員交代申出について 他
第 5 回	8月6日 (火)	日吉事務所 相談室	新型コロナ感染拡大への対応・対策について 計画的職員募集について 京都府社会福祉大会について 他
第 6 回	9月12日 (木)	日吉事務所 相談室	令和7年度 南丹市社会福祉予算 要望活動について 台風10号の対応について 物価高騰対策・生活困窮者支援事業について 他
第 7 回	10月7日 (月)	本所 和室	八木デイサービスセンター改修工事進捗について 正規職員登用募集について 能登半島豪雨災害支援について
第 8 回	11月11日 (月)	本所 和室	理事会部会について 業務組織・機構の一部見直しについて 法人後見事業進捗報告
第 9 回	12月12日 (木)	日吉事務所 相談室	上半期監事監査結果について 年末年始の対応について 地域活動支援センター移転について
第 10 回	1月15日 (水)	日吉事務所 相談室	令和7年度 業務組織・機構改革(案)について 令和7年度 役職者人事について 福祉基金(善意銀行)積立金の資金運用について
第 11 回	2月13日 (木)	日吉事務所 相談室	令和7年度 人事配置 (内示) について 職員採用について ふれあい給食事業現状・課題について
第 12 回	3月25日 (火)	本所 和室	理事会・評議員会について 社会福祉法人指導監査結果について 苦情解決第三者委員会報告について

※毎回共通報告事項：経営事業利用状況・収支状況

＜企画小委員会 合同会議の開催状況＞

回分	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	2月28日 (金)	アスエル園部	令和6年度の地域福祉活動計画の評価について 令和7年度の地域福祉事業の計画案について

＜園部町企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月28日 (水)	アスエル園部	事業進捗報告 ふれあい委員活動について サロン助成について

＜八木町企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	9月19日 (木)	八木事務所	事業進捗報告 ふれあい委員活動について サロン助成について

＜日吉町企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月21日 (水)	日吉事務所	事業進捗報告 ふれあい委員活動について サロン助成について

＜美山町企画小委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月26日 (月)	美山保健センター	事業進捗報告 ふれあい委員活動について サロン助成について

＜広報委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6月11日 (火)	アスエル園部	「なんたん社協だより」第61号(7月発行)原稿案について
第 2 回	9月5日 (木)	アスエル園部	「なんたん社協だより」第62号(10月発行)原稿案について 今後の広報紙の内容について
第 3 回	11月27日 (水)	アスエル園部	「なんたん社協だより」第63号(1月発行)原稿案について
第 4 回	2月27日 (木)	アスエル園部	「なんたん社協だより」第64号(4月発行)原稿案について

＜ボランティアバンク運営委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	6月24日 (月)	日吉事務所	報告事項（事業報告、V基金運用益額、R5助成報告、R6事業計画 等） 協議事項（ボランティアグループ特別助成の審査） R6年度委員会活動について

◇ 令和6年度 ボランティア基金 運用実績

（金額単位：円）

基金原資 ①	利 息 ②	売買による損益 ③	運用益合計 ④＝②＋③	年間運用率 ⑤＝④÷①×100
93,000,000	1,729,000		1,729,000	1.859%

※運用率は少数点第4位切り捨て

＜福祉資金調査委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	8月8日 (木)	日吉事務所	くらしの資金 償還状況について 生活福祉資金貸付 新規・変更等について 特例貸付フォローアップ相談・支援事業について 他
第 2 回	2月20日 (木)	日吉事務所	くらしの資金 償還状況について 生活福祉資金貸付 新規・変更等について 特例貸付フォローアップ相談・支援事業について 他

＜苦情解決第三者委員会・個人情報保護委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	3月26日 (水)	本 所	苦情案件対応について

＜善意銀行運営委員会の開催状況＞

回	開催日	場所	主な協議事項
第 1 回	12月13日 (金)	日吉事務所	玄米保冷库購入に係る福祉基金の活用について 小規模多機能ホームだんない浴室改修工事の実施報告 令和6年9月能登半島豪雨被災地支援の取組について
第 2 回	3月31日 (月)	書面会議	令和6年度 福祉基金（善意銀行積立金）の状況（報告） 福祉基金運用管理規程（見舞金支給規定）の改正について 玄米保冷库購入について（報告）

◇ 令和6年度 福祉基金(善意銀行積立金)残額 (金額単位：円)

区分	内 容	積立額	取崩額	
繰越	前年度末積立金残高	63,431,790	0	
取崩	見舞金 (9 件)	0	270,000	
	だんない浴室増築工事費用	0	5,775,000	
	玄米保冷库購入補助	0	261,800	
積立	預金利息	137,484	0	積立金残額
合 計		63,569,274	6,306,800	57,262,474

〈職員全体研修の実施状況〉

回	開催日	場所	内容等
第 1 回	6月26日 (水)	八木事務所	コミュニティコーピング研修 参加人数：19名 (スタッフ含)
第 2 回	10月4日 (金)	アスエル園部	災害ボランティアセンター模擬訓練研修 参加人数：33名 (スタッフ含)
第 3 回	11月1日 (金)	美山事務所	南丹市社協事業所紹介 参加人数：21名 (スタッフ含)
第 4 回	12月10日 (火)	アスエル園部	人権学習 ハラスメントについて 参加人数：28名 (スタッフ含) ※後日オンライン研修実施 参加人数：14名

地域支援の部

地域支援課（地域支援センター）

1. 見守りネットワーク活動の充実

資料編：1～5頁

- ・ あんしん・あんぜん情報（見守りチラシ）、ふれあい給食（園部・八木・美山における月に1回の弁当配達）・サロン活動報告書等・歳末見守り物品等の様々なツールを準備・活用し、地域の皆さまと連携して見守り活動を実施した。
- ・ ふれあい委員研修やふれあいネットワーク会議、ふれあい委員・民生児童委員交流会などを通じて見守りネットワーク活動の強化を図った。
- ・ 南丹市見守り協定締結事業者と南丹市徘徊 SOS ネットワークを対象に交流研修会を実施し、ネットワークの拡大・強化を図ることができた。
- ・ 見守りネットワーク活動報告書記載内容に応じて、関係機関とも連携しながらフォローを行うことで、活動者の安心につながり信頼関係構築が進み、連携を強化することができた。
- ・ 誰でも気軽に相談できる相談会を各町で開催した。相談会は基本職員2名体制で対応した。経験のある職員がノウハウを伝え、相談会後には振り返りを行い職員の資質向上も図った。

2. サロン活動・居場所づくり

資料編：5～6頁

- ・ ふれあい・いきいきサロン（以下「サロン」）活動の公平な助成支援のため、助成の方法を明確化し、ルールの説明を徹底した。
- ・ サロン対抗選手権「みんなでなんたんグランプリ」の実施により、サロン活動の活性化につながった。
- ・ 各エリアのサロンや通いの場を一覧にした「みんなの居場所マップ」を作成した。
- ・ 活動の拠点づくりに関して、旧小学校の閉館などにより公共施設が使えなくなる課題がある。

3. 住民主体の支え合い活動、移動・外出支援活動の推進

資料編：6～7頁

- ・ 訪問型サービス D 活動実施団体との連携、活動支援を行った。
※ 訪問型サービス D 事業 …… 介護保険法における介護予防・日常生活支援総合事業の一つ。送迎を伴う支援において、送迎前後の見守り支援活動に対し市が補助を行う。
- ・ 各種団体の移動支援活動を支援するため、車両貸し出しを実施。ボランティア運転手による自損事故の事案が発生したことから、車両貸し出し時に丁寧な説明や注意喚起を徹底することを確認した。
- ・ 個別相談から見えてきた課題として、移動支援は高齢者だけではなく、障がいのある方、子育て世代にもニーズがあることがわかってきた。個別支援を通じて、住民主体の支え合い活動への移行や、公的制度化の必要性を見極め、次の展開を図りたい。

4. 協働で進める地域福祉の体制づくり

資料編：7頁

- ・ 地域福祉推進継続・発展事業により、3地区の地域福祉推進組織が取り組む事業・活動を重点的に支援した。
- ・ みんなで一步健康すごろく、福祉教育活動、移動支援、防災講座などをきっかけに、企業のCSR（企業の社会的責任）活動や社会福祉法人の地域貢献活動につなげることができた。
- ・ 年度初めに市内各学校へ挨拶回りに行くことで、昨年度と比較して学校等から福祉教育の依頼が増えた。
- ・ 福祉教育の授業に、他機関・他団体に講師として参画してもらうよう働きかけたことで、専門性の高い知識や経験の提供をすることができた。
- ・ 多様な職業人・地域の人と出会うことで、キャリア教育の推進にもつながった。

5. 地域福祉活動の財源づくり

資料編：8～9頁

- ・ふくしまライ TV を活用し、赤い羽根共同募金の広報強化を行った。
※ ふくしまライ TV ……南丹市社協がなんたんテレビと協働で制作している福祉に関する情報番組
- ・南丹市共同募金委員会では、もっと活発に啓発活動を行ってはどうかという意見が出ており、引き続き効果的な広報・啓発の方法を検討していく。

6. 地域防災力の強化

資料編：9～10頁

- ・法人の職員研修として、災害ボランティアセンター設置・運用訓練を実施した。定期的な訓練の必要性を再確認した。
- ・南丹ブロック（亀岡・京丹波・南丹）災害ボランティアセンターの合同事業として防災イベント『今日から始めよう！わが家の防災』を開催した（11月16日 ガレリアかめおかにて）
- ・南丹圏域の異業種交流会でつながった防災士から声掛けをいただき、ふれあい委員対象の防災講座を開催することができた。

7. 地域福祉活動への住民参加の促進

資料編：10～14頁

- ・障がいのある方が南丹市ボランティア交流会に参加できるよう、南丹市に対して4町ボランティア連絡協議会会長会と共に手話通訳・要約筆記の要望をした。
- ・ふくしまライ TV の中の、地域のキニナル出来事・地域のお宝キラキラ活動などのコーナーで様々な地域の活動紹介を行った。
- ・ボランティアガイドブック『ぼらん』の第3版を発行した。若い世代やボランティアをしたことがない人をターゲットに「ぼらんぷらりー」（ボランティア体験×スタンプラリー）という取り組みを企画・実施した。
- ・ボランティア活動者の後継者不足が嘆かれる現状が続いており、ボランティア活動従事者の獲得に向け、アワアワプロジェクトなどの取り組みを進める必要がある。
※ アワアワプロジェクト ……「ワタシの時間をチイキのために～Four hours for our community」を合言葉にボランティア活動を推進するプロジェクト
- ・各町のボランティア連絡協議会と連携し、京丹後市ボランティア連絡協議会との交流会を実施した。また、みやこめっせで開催されたスカイ活動見本市に参加した。
- ・南丹市社協のボランティア活動・活動支援の取り組みが注目され、京都府社協主催のボランティア担当者会議で活動発表を行った。
- ・公募型の「たすけあいカフェ」を実施したところ、これまで社協とつながりがうすかった若手地域活動者（20代～60代まで）人財発掘ができた。今後、住民主体の支え合い活動を立ち上げていけるよう伴走的に支援していく必要がある。
- ・各小中学校において様々なプログラムの福祉教育を実施した。

8. 地域貢献事業の推進

- ・コロナ禍で中断した社会福祉法人連携共有会議は開催できなかったが、地域のニーズを個別に社会福祉法人に伝え、地域貢献事業としてできないか検討していただくよう個別にアプローチをした。
- ・みんなで一歩健康すごろくの紙面作り・景品提供など、訪問して趣旨説明を行い、51の企業・団体から景品・参加賞の提供をいただくことができた。

9. 地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進

資料編：14頁

- ・計画の進捗確認・事業評価をどのように行うか、地域福祉計画推進委員会の事務局として社協からも積極的に提案した。

- ・委員会において、ふくしミライ TV を活用して地域福祉活動の進捗報告を行い、グループワークで意見交換を行った。
- ・次年度は引き続き第4期計画を推進するとともに、第5期を見据えた動きも開始したい。

10. 広報活動の充実

資料編：14～16 頁

- ・音訳ボランティアが作成した広報データ（社協だより・広報南丹）を公式YouTubeにアップロードし、多くの方に情報が届く取り組みをおこなった。
- ・ふくしミライ TV の取材活動をコアメンバーから地域支援課の職員へ広げ、取材体制を強化することができた。
- ・SNS を見て事業の参加を決めたという声があり、必要な人に必要な情報を届ける工夫に継続して取り組んでいきたい。
- ・2ヶ月に1回発行の日吉事務所だより『hanaso』やふくしミライ TV のための取材を通じて、地域の声を聞く機会になったと同時に、地域でも話題にしてもらうことができた。こうした取組により、実施事業の周知・参加率の向上に繋がった。

11. 高齢者等生活支援サービス事業

資料編：17～18 頁

(1) 食の自立支援事業

- ・大型台風が予想された際、事業者や利用者と連携し、各エリアで適宜中止等の判断をするとともに、電話等により利用者の安否確認を行った。
- ・安否不明時に緊急連絡先につながらない場合などは、自宅を訪問するなどの対応を行った。

(2) 外出支援事業

- ・各事業を担当するコーディネーターが、南丹市高齢福祉課やご家族・担当ケアマネジャーと連携をしてスムーズな予約・運行を実施することができた。

(3) 両事業共通

- ・災害警戒時には、職員の安全を確保しながら、事業継続に努めた。
- ・各エリアコーディネーター会議を開催し、エリア間の課題や工夫を共有し、業務改善につなげた。

相談支援の部

生活相談課（生活相談センター）

1. 福祉サービス利用援助事業（京都府社協委託事業）

(1) 実績（令和7年3月末時点）

① 利用者数

担当事務所	内 訳				合 計	昨年度 比	生保 受給世帯
	認知症等 高齢者	知的障害者等	精神障害者等	その他			
園 部	3	11	12	5	31	-2	15
八 木	2	2	2	4	10	-3	2
日 吉	1	2	5	0	8	0	3
美 山	0	4	2	1	7	1	3
合 計	6	19	21	10	56	-4	23

② 新規契約者数

対象者	認知症等 高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
人 数	1	1	4	3	9

③ 解約・終了者数

対象者	認知症等 高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
人 数	3	3	6	1	13

(2) 内部監査

対象事務所	日 程	監 査 結 果	対象事務所	日 程	監 査 結 果
本所	7 月 4 日	適正である	日吉事務所	7 月 16 日	適正である
	1 月 22 日			1 月 27 日	
園部事務所	7 月 18 日	適正である	美山事務所	7 月 16 日	適正である
	1 月 31 日			1 月 27 日	
八木事務所	7 月 11 日	適正である	預かり品チェック	7 月	各監査時相違なし
	1 月 27 日			1 月	各監査時相違なし

※内部監査は上半期と下半期で、年2回実施。

※監査は常務理事・総務課・地域支援課・生活相談課が合同で行い、牽制機能を働かせている。

(3) 相談・連絡調整活動の実施状況

対象者	認知症等 高齢者	知的障害者等	精神障害者等	その他	合 計
回 数	2, 274	4, 834	4, 358	2, 246	13, 712

※利用者、利用予定者、終結者、関係者等に対して、本所各事務所担当が調整した件数の合計
（令和7年3月末実績）

(4) 成果と課題

【成果】

- ・成年後見制度への移行ケースが7件あり、移行時に後見職を含めた共有の場を持ち、連携を図った。
- ・生活支援員研修の開催
南丹市社協現任研修（9/27 22名）、京都府社協現任研修（10/25 北部会場1名、11/1 南部会場5名）、
京都府社協新任研修（11/27 2名）、南丹ブロック現任研修（12/11 19名）
- ・ご本人に少しでも管理能力を高めてもらえるよう、生活支援員が金融機関への同行をして、振込を何度も一緒に練習するなど、自立に向けた支援や工夫を続けた結果、困った時には相談できる力が身に付き、自身で管理できるようになって、本事業の解約に繋がったケースが3件あった。

【課題】

- ・既に当事業の利用よりも成年後見制度の利用が望ましいケースでも、後見職が就くまでの一時的な繋ぎとして、関係者から事業利用を打診されることがとて多くなっている。
繋ぎの利用契約とは言え、新規契約としての多くの事務やマネジメントをし、利用開始まもなく解約の事務処理もあり、対応が大変煩雑となる。
他に妥当な支援方法がない場合は当事業での援助が必要とも考えられ、地域支援として対応せざるを得ない場合もあるため、どう対応するか判断に苦慮している。
住民の権利擁護を考えた時、普段から、困りきった時ではなく適切なタイミングで成年後見制度の利用に繋がるよう、市民や各関係機関に制度を周知し、市の権利擁護・成年後見センターとの密な連携も必要である。
- ・生活支援員不足の課題は、利用者数減少もあって相対的に解消しつつあるが、毎週支援を必要とする利用者もある中、その対応が可能な生活支援員は依然として不足している。複数の生活支援員が交代で担当する体制をとるなど工夫したり、一時的に実務担当者が代行するなどして対応している状況である。ハローワークを通じて近隣市町などにも広く公募し、生活支援員を補充していく必要がある。
- ・京都府の最低賃金が1時間当たりの利用料1,000円を上回り、生活支援員の賃金が利用料収入を上回る月がある。今後の事業継続のための予算確保が課題である。（次年度に向け利用料の見直しや公費負担範囲の見直しが進められている。利用者との契約に関して重要な観点となるため、適切に対応していきたい。）

2. 法人後見事業（独自事業）

(1) 受任実績

No.	住所	類型	申立日	審判日	確定日
1	美山町	後見	令和4年5月26日	令和4年6月28日	令和4年7月15日
2	八木町	保佐	令和5年11月10日	令和5年12月13日	令和6年1月5日

※No1の被後見人については令和6年7月15日に死亡され、相続人への引継ぎも終わり、後見業務終結となった。

(2) 運営委員会の開催

第1回 令和6年6月14日（金） 10:00～12:00

〈内 容〉 令和5年度事業報告、令和6年度事業計画案、受任ケースについての報告、事業運営の進捗状況 など

第2回 令和6年10月23日（水） 10:00～12:00

〈内 容〉 受任ケースについての報告、受任ケース報酬について、事業運営の進捗状況 など

第2回 令和7年3月18日（火） 14:00～16:00

〈内 容〉 受任ケースについての報告、事業運営の進捗状況 など

(3) 内部監査

場所	日 程	監 査 結 果
本所	9 月 24 日	適正である
	3 月 3 日	適正である

(4) 研鑽・資質向上

【法人後見支援員研修会】

〈内 容〉 実践の現場で具体的な援助を学び、後見業務の実務・実情について理解を深めることを目的に開催。

〈日 時〉 ・実地研修開催日 11月27日（水）、29日（金）、12月4日（水）

参加者：13名【講師3名、法人後見支援（及び登録者）7名、社協職員3名】

・振り返り会 12月11日（水）南丹市社会福祉協議会 日吉事務所相談室にて

参加者：12名【講師2名、法人後見支援（及び登録者）6名、社協職員4名】

【内部研修（南丹市社協主催）】

〈日 時〉 2月6日（木）14：00～15：30

参加者：11名【講師1名、法人後見支援（及び登録者）6名、社協職員4名】

〈内 容〉 死後事務について 〈講 師〉 上田浩平司法書士

【外部研修・会議（外部機関主催）】

・令和6年度 南丹市市民後見人フォローアップ研修（前期）

〈日 時〉 7月18日（木）13：00～16：00

〈内 容〉 成年後見人としてご本人の意思決定を支えるために（南丹市市民後見人候補者名簿登録者向け研修）

・令和6年度 南丹市市民後見人フォローアップ研修（後期）

・令和6年度 京都府社会福祉協議会 オンライン研修

(5) 南丹市権利擁護・成年後見センター 運営委員会への参画

第1回 6月5日（水）13：30～15：30

第2回 9月4日（水）14：00～16：00

第3回 12月23日（月）14：00～16：00

第4回 3月5日（水）14：00～16：00

(6) 成果と課題

【成果】

- ・昨年度に引き続き、担当者・法人後見支援員研修会（実地研修）を開催し、実践の現場で具体的な支援方法を学ぶことで、後見業務の実務や現状に対する理解を深めることができた。後日の振り返り会においても、活発な意見交換が行われた。
- ・法人後見事業における事務の流れや、裁判所へ提出する報告書類の作成などについては、概ねスムーズに手続きを行うことができた。

- ・受任ケースの支援においては、被保佐人の通っていた学校や教習所関連の書類手続きが一段落し、意思決定支援に注力できる支援体制が整いつつある。

【課題】

- ・当法人の法人後見の要綱（対象者要件）上、受任ケースに限られるため、一人ひとりに対してじっくりと支援できる反面、支援員の専門性や資質向上の機会も限定的となる一面がある。
- ・支援体制について、現状では本所のみを拠点とする体制であり、支援の効率性に課題がある。適切かつ公正な運営を前提としながら、各事務所拠点での支援体制の構築が必要となってきた（現在、法人内で具体的に検討中である）。

3. 生活福祉資金貸付事業（京都府社協委託事業）

(1) 実績（令和7年3月末時点）

① 通常貸付

	総合支援資金			教育支援資金		不動産担保型生活資金	緊急小口資金	臨時特例つなぎ	福祉費	不明や非該当	制度について	その他	合計
	生活支援費	住宅入居費	一時生活再建費	教育支援費	就学支援費								
件数	0	0	0	4	4	0	2	0	2	0	0	0	12

(2) 成果と課題

【成果】

- ・昨年度から継続し、今年度も民生委員協議会（7/24 八木、9/17 日吉）の定例会・勉強会にて、生活福祉資金事業に関する事業説明などを行い、事業の周知や連携を図る機会をもつことができた。
- ・教育支援資金について6～7月にかけて市内4中学校に説明の機会をいただき、中学3年生およびその保護者に情報が届くよう制度案内チラシの配布依頼を行った。教育支援資金申請者4名のうち2名は、配布チラシを見て相談があり、貸付に至った。

【課題】

- ・日吉町民協を起点とし八木町民協にも声を掛けていただき本事業の説明の機会をいただくことができた。未実施の2町でも同様の機会をもちたい。継続的にアプローチしていく。
- ・市内高等学校・支援学校へのアプローチができていないため、来年度に向けて『大学等進学用』のチラシを作成し、必要な世帯へ情報が届くよう取り組んでいく。

4. 特例貸付フォローアップ相談・支援事業（京都府社協補助金事業）

(1) 実績（令和7年3月末時点）

① 相談対応件数

相談方法	アウトリーチでの相談	借受人からの相談	借受人以外からの相談
電話対応	280件	56件	17件

訪問対応	48 件	0 件	0 件
窓口対応（面談含む）	14 件	55 件	4 件
郵便・メール・SMS 等	269 件	14 件	2 件

② 相談内容（重複あり）

相談内容	償還	就労	傷病	介護・看護	債務・家計	住居・その他
件数	341 件	131 件	55 件	12 件	140 件	223 件

(2) 成果と課題

【成果】

- ・京都府物価高騰対策・生活困窮者支援事業とあわせ、新たに各地で生活相談会を実施。物資配布にとどまることなく生活の困りごと等を伺い、生活再建に向けた助言等を地域福祉コーディネーターと共働で行うことで、個別支援から地域課題を考える機会として、また地域課題から個別支援をどう展開するかなど、情報共有を図ることができた。
- ・未応答の滞納者に対し、各エリアの地域福祉コーディネーターや生活困窮者自立相談支援事業担当者とともに訪問を実施。訪問時に借受人となかなか面会できなかったが、連絡してもらいやすいようなコメントを工夫した不在票（名刺付）をポストインしたことによってリアクションがあり、面談から償還猶予や免除に繋がったケースもあった。
- ・年間通じてエリアごとに地域特性に応じた生活相談会を実施することができた。必要に応じて伴走的・継続的な支援を行い、希望者には食料品の提供を行った。
- ・寄り添いワーカーのミーティングを毎月実施。生活相談会等でお聞きした相談内容をケース検討し、経験を共有化することによって寄り添いワーカーのスキルアップを図ることができた。

【課題】

- ・すべての借受人に積極的なアプローチができておらず、滞納者など一部の借受人に限られた。（ただし、猶予申請等の情報提供文書を郵送することにより、最低限のアプローチは取っている。）

5. 暮らしの資金貸付事業（南丹市委託事業：償還業務のみ）

(1) 償還完了実績 ※（ ）は貸付に関する相談

	園部町	八木町	日吉町	美山町	合計
上半期	1 (1)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	3 (2)
下半期	1 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	1 (2)

※令和6年度より新規の貸付事業については休止の取り扱いとなった（次年度廃止予定）

(2) 成果と課題

【成果】

- ・今年度、事業における新規貸付が休止となったが、そのことを知らずに貸付の相談に来られた方が数名いた。貸付事業の休止を伝えた上で、相談者の困りごとを面談等で丁寧に聞き取り、必要に応じて他の制度（生活困窮者自立相談支援事業や生活福祉資金貸付事業など）へつなげて相談援助を行った。
- ・中長期滞納者に対しては、自宅訪問による積極的なアプローチを行った。訪問によって、直接生活状況を確認できた世帯もあり、また後日、相談者から連絡があり償還へとつながったケースもあった。

【課題】

- ・文書送付などについては、中長期滞納世帯からの反応が乏しく、償還につながりにくい状況が続いている。
文書送付や電話連絡のみでは償還に結びつく効果が薄く、やはり自宅訪問などのプッシュ型のアプローチが必要と考えられる。

6. 生活困窮者自立相談支援事業・家計改善支援事業（南丹市委託事業）

(1) 相談受付件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談受付件数(総数)		3	3	4	2	1	6	5	5	3	3	6	6	47
プラン作成件数(総数)		1	3	3	1	4	2	5	2	6	4	2	1	34
法に基づく事業件数	住居確保給付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一時生活支援事業	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	家計改善支援事業	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	5
	自立相談支援事業による就労支援	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
	福祉資金による貸付	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

(2) 支援調整会議の開催

- ① 全体会 1回(4/18)
- ② 実務者会議 12回(4/26、5/24、6/21、7/26、8/27、9/20、10/25、11/28、12/20、1/24、2/21、3/21)
- ③ 臨時会議 1回(8/29)

(3) 専門職との連携

- ① 法的解決支援プログラム（京都司法書士会） 相談件数 14件
- ② 年金相談（社会保険労務士） 相談件数 4件
- ③ 法律相談（弁護士） 相談件数 6件

(4) 研修会の開催

生活困窮者自立相談支援事業 研修会開催「若年層の方へのひきこもり支援について」
11月22日（金）南丹市役所 301会議室 参加南丹市生活困窮者 29名

(5) 南丹市共同募金委員会との連携

生活困窮者緊急時助成 適用件数 0件（助成額：計 0円）

- ・1世帯あたり3万円以内で必要実費を助成。（南丹市共同募金委員会より年間予算10万円）。
- 歳末助け合い運動に係る激励金配分事業 72世帯（一世帯各5,000円）
- ・福祉サービス等を必要とする人が地域社会の一員として、安心して新しい年を迎えられるよう支援する助成金。

(6) 広報

広報物品の配布及び事業周知活動

- ① 令和6年7月 二本松学院学生（京都太陽の園分場）
- ② 令和6年9月 大堰塾（京都信用金庫八木支店）
- ③ 令和6年10月 明治国際医療大学たには祭（明治国際医療大学学園祭）
- ④ 令和6年11月 摩気文化祭（旧摩気小学校）
- ⑤ 令和6年12月 なんとん森のくらしフェスタ（日吉商工会）

(7) 共助の基盤づくり事業

「たん・けん・たい」企画（たん：探索、けん：見学、たい：体験）

- ・地域発見クリーン活動（京都太陽の園分場との協働）・・・6月15日（土）開催 参加者：4名
- ・こころほぐれる牧場体験（八木町・谷牧場）・・・3月12日（水）開催 参加者：6名

※「たん・けん・たい」は、すぐには就労することが困難な課題を持つひきこもりがちの方に対し、体験型イベントや就労体験、職場見学などのメニューを提供する、社会参加型就労準備支援の取り組み。

(8) 食料や物資の提供支援

- ・社協フードパントリー（※1）を中心に、市民参加のフードドライブ（※2）活動への協力、こども食堂的イベント等への提供、また、フードロス解消も目的に含め継続実施した。

※1：フードパントリー・・・経済的事情等により支援が必要な個人や世帯へ食料品等を提供するなかで、相談支援に繋いでいく活動のこと。南丹市社協では、生活に困窮する世帯に対し無料で食料を提供する生活相談センターの取組みとして実施している。パントリーとは一時保管庫や食品庫の意味。

※2：フードドライブ・・・ご家庭で余っている食料等を捨てずに持ち寄り、困っている世帯や支援団体に寄付する活動のこと。

【事業(取り組み)】

＜フードパントリー・物品バンク（※3）＞ 生活相談センター独自の取組

- ・フードパントリーからの困窮世帯への提供支援件数：延べ36件
- ・子どもへの食料支援を実施している団体への提供 乾パン、駄菓子、お米（Ruri・ここたす・グローアップ等）
- ・学生向け食料支援企画

令和6年4月 お米でつながるプロジェクト…南丹看護学生へお米配布

7月 食からつながるプロジェクト@なんとん（京都太陽の園分場・二本松学院との合同企画）

…太陽の園分場にて二本松学院学生へお米配布

- ・京都府社会福祉協議会との食料物資の交換取組（令和6年7月実施）
府社協、南丹市社協の管理物品においてそれぞれの不足している品目を補填する取り組み
- ・フードパントリーへの寄贈協力先

京都府社会福祉協議会（缶詰、クッキー）、京丹波町社会福祉協議会（調味料）、(株)マルホ発條（乾パン）、南丹市健幸まちづくり課（商品券）等

- ・物品バンクからの提供 1件（炊飯器）
- ・南丹市社協フードパントリーの体制整備強化

寄贈していただいた食料やお米について、受け入れ体制の充実と拡大を図る目的で保冷庫を購入。

（京都府共同募金会助成金及び南丹市社協善意銀行の資金を活用）令和7年4月納品予定。

※3：物品バンク・・・市民からご寄附いただいた使用可能な中古家電等生活用品をストックし、必要とされる困窮者に無償で貸出又は提供する生活相談センターの取組みとして実施している。

〈令和6年度 京都府物価高騰対策・生活困窮者支援事業〉

- ・物価高騰により、現に経済的に生活に困窮する世帯に対し、食糧及び日用品を詰め合わせた物資（3,000円相当分）を無償提供する中で相談支援を行う、生活相談課と地域支援課協働の取組み
 - 生活相談課取組（令和6年10月～令和7年3月）述べ200世帯へ配布。
 - 地域支援課取組（令和6年9月～令和7年2月）述べ30世帯へ配布。

〈令和6年度 京都府物価高騰対策緊急生活支援事業〉

- ・長引く物価高騰により生活が厳しい状況を余儀なくされている世帯に対して行う生活支援物資（食料品や生活必需品等）を提供する（令和7年3月1日～令和7年3月31日）
 - 生活相談課取組（令和7年3月購入、約100万円相当分）令和7年度から順次配布予定

(9) 成果と課題

【成果】

- ・生活相談会や、物価高騰対策事業による物品提供などの催しを通じて、相談の窓口を広げ、相談者にとっての心理的ハードルを下げる事ができた。
- ・物価高騰対策・生活困窮者支援事業や、フォローアップ相談・支援事業の取り組みと連携することで、法人内部の部署横断的な連携が進み、支援体制の重層化が図られた。
- ・今年度も「たん・けん・たい」を2回実施できた。参加者からは「やりがいを感じた」「良い経験になった」との肯定的な声が寄せられた。こうした社会資源の活用や社会参加の機会は、ニーズが高く、貴重な取り組みである。
- ・研修会については、「ひきこもり」をテーマに、昨年度に引き続き2か年計画として実施できた。ひきこもり対象者を中高年層と若年層に分けて捉える機会を設けたことで、関係機関における当事者理解が深まり、今後の支援のあり方を支援者側が再考し、さらに関係機関どうしの連携強化へとつなげることもできた。

【課題】

- ・新規相談の増加などにより相談が重なった際、相談体制や相談員の負担が課題となっている。相談支援に支障をきたさないよう、相談員の配置や、各事業や取り組みの内容を随時見直し、効率化を図っていく必要がある。
- ・フードパントリーや物品バンクの充実により、支援策の一つとして活用できるようになった一方で、管理業務の負担が増加している。事業の利用しやすさを前提としつつも、課内に限らない体制・仕組みの構築が必要である。
- ・住まいを喪失した相談事例は、頻繁ではないものの毎年数件の相談があり、居住支援に関する地域資源が乏しいことは、南丹市の課題である。今後も市や関係事業所と情報を共有しながら、引き続き検討を進めていく。
- ・赤い羽根共同募金を原資とする生活困窮者緊急時助成事業を展開しているが、物価高騰のあおりもあるためか、助成金額である3万円上限では対応が困難なほどの困窮度合い（傷病、失業、多重債務などの複合課題あり）の相談者が多く、他に方法がなく生活保護となったケースが多かった。

1. 地域包括支援事業（南丹市委託事業）

(1) 総合相談

- ・相談件数：延べ733件（園部：306、八木：150、日吉：141、美山：114、その他：17、不明：5）
〔相談者内訳〕多い順に、子・子の配偶者（23.3%）、ケアマネジャー（10%）、本人（9.6%）、医療機関（9.1%）
〔主な相談内容〕半数が「制度・サービスについて」である。

(2) 権利擁護

① 虐待

- ・通報：9件（通報に至らない相談：15件）
・受けている側：女性7人、男性2人／している側：男性8人、女性1人

② 成年後見

- ・相談：17件

(3) 包括的継続的マネジメント支援

① ケアマネ連絡会

- ・実施回数：4回／参加者数：延べ175人

② ケアマネ事例検討会

- ・実施回数：4回／参加者数：延べ59人

③ 通所部会

- ・実施回数：3回／参加者数：55人

(4) 地域ケア推進会議

- ・テーマ：みんなでつくる地域包括ケアシステム～地域コミュニティの可能性～
10/11（金）13時半～15時半 於南丹市生涯学習センター遊 you ひよし
参加者：83名

(5) 地域ケア個別会議

- ・実施回数：34回（園部：17回、八木：10回、日吉：4回、美山：3回）／出席者数：延べ261人
出席者（地域包括職員以外）：介護保険サービス事業所、行政、ケアマネジャーが上位にのぼる。

(6) 予防ケアマネジメント

- ・利用者数（「事業対象者」から「要支援2」認定者まで）：561～605人/月
・市内ケアマネジャー1人あたり予防ケアマネジメント担当数：月平均10.5人
・地域包括支援センターから市内居宅介護支援事業所への委託率：68.7%
※市内居宅介護支援事業所（委託）：17カ所、在籍ケアマネジャー数：計40人（令和7年3月末現在）

(7) 地域支援ネットワークの構築

- ・通いの場への出前講座：15回実施／出張相談：7回
内容：地域包括支援センター啓発、小学生へ福祉教育、介護保険制度など。

(8) 認知症を知り、地域で支える活動の推進

① 認知症サポーター養成講座

- ・実施回数：7回、サポーター認定：219人
対象：小学生、大学生、サロン参加者など（内容は、それぞれの依頼にあわせて実施）

② 徘徊 SOS ネットワーク「つながろう南丹ネット」

- ・今年度、実動（FAX 送信）はなかった。新規の事前利用登録者：9 名（合計 43 名）。
- ・認知症声かけ訓練：3 月に日吉町民生児童委員協議会と共同で実施：33 名。

2. 認知症初期集中支援推進事業（南丹市委託事業）

- ・会議の開催：7 回 / 支援の検討ケース：2 ケース（新規 1、継続 1）

3. 認知症地域支援・ケア向上事業【認知症地域支援推進員】（南丹市委託事業）

(1) オレンジガーデニングプロジェクト

- ・認知症当事者が参加できる取り組みとして、市内のグループホームや認知症対応型デイサービスの利用者に、花の種の仕分けやその袋のデザイン、種の袋詰め作業に参加いただいた。
- ・花の種を啓発チラシとともに市内各所にて配布。
- ・育てた花の写真の応募受付。
- ・オレンジの花を使ったワークショップと認知症ミニ講座を開催 ※（ ）内は認知症ミニ講座
京都府立農芸高校と寄せ植え体験（にちふくゲーム）9 名参加
しおり作り（図書館職員より、認知症関連本のブックトーク）4 か所開催で合計 25 名参加
染色体験（市内グループホーム施設長から入居者の生活や認知症に関する話）：9 名参加
- ・小学校との取り組み：KCN キャラクターじゅういちくんと種のまき（KCN で放映）、
認知症サポーター養成講座、高齢者施設と子どもたちとのオンライン交流。
- ・放課後児童クラブでのしおり作り、認知症クイズ：1 か所開催で 27 名

(2) 本人ミーティング ※認知症の当事者どうしが集まり、語り合う場としての取り組み。

- ・陶芸教室：当事者の男性 3 人とその介護者である妻が 3 人参加。介護者どうしの交流もできた。
- ・囲碁：グループホーム入居者と囲碁サークルが対局。施設側も取組の継続を希望されている。

4. 総括

- ・相談件数は前年度に比べて 70 件近く増えた。高齢者福祉ガイドブックが全戸配布され、それを見ての相談もあった。広報の効果が出たと思われる。
- ・地域ケア個別会議では、ケアマネジャーが支援困難と感じているケースについて関係者が集まって支援について検討している。身寄りがなかったり、あっても疎遠であったり、経済的な課題を抱えているケースが多い。これらは決してめずらしいものではなくなっている。介入が難しい場合もあり、解決策がすぐにはとれないが、つかず離れずの距離で支援者が協力しあって見守りながら、介入のタイミングを逃さないようにしている。
- ・日吉町民生児童委員協議会からの声かけで『見守り声かけ訓練』の実施に至った。きっかけは、前年度の地域ケア推進会議に参加されたことだった。同会議からの新たな広がりができたのがよかった。
- ・認知症支援については、オレンジガーデニングプロジェクトのワークショップを通し、認知症に関心がなかった人にも参加してもらえた。今後も気軽に参加していただける取り組みを実施し、認知症啓発に取り組みたい。
- ・本人ミーティングでは、当事者の「やりたい！」思いをかたちにできた。周りの人が知らなかった本人の一面を知る機会にもなっている。
- ・その他、今年度も全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会において、発表する機会を得た。「多機関協働での認知症啓発活動実践～オレンジガーデニングプロジェクトを活用して～」と題して、小学校との取り組みについて共有できた。取り組みを振り返り、次につながる機会にするためにも、今後も発表していきたい。

1. 居宅介護支援事業（ほほえみおい居宅介護支援事業所、ほほえみかぐら居宅介護支援事業所）

(1) 実績

① ほほえみおい居宅介護支援事業所

- ・ケアマネジャー員数：常勤換算 6.4 人（R7.3 現在）／ 特定事業所加算Ⅱ（1 件あたり 4,210 円の加算）
- ・ケアマネジメント数：2,000 件（1 ヶ月平均 166.7 件／ケアマネジャー1 人当たり：26.0 件）
- ・事業活動収入：32,907 千円（対予算：482 千円，達成率：101%）
- ・地域別の割合：園部 2：八木 8

【相談件数】 内訳 園部 18 件 八木 98 件 亀岡市 1 件

相談ルート	包括支援センター	直接	医療機関	その他	計
件数	68	30	5	14	117

※月別(多い順に)・・・8月16件、6月：12件

【支援終了件数】

事由	死去	入所	その他	計
件数	24	26	4	53

② ほほえみかぐら居宅介護支援事業所

- ・ケアマネジャー員数：常勤換算 4.0 人／ 特定事業所加算Ⅱ（1 件あたり 4,210 円の加算）
- ・ケアマネジメント数：1,826 件（1 ヶ月平均：152.1 件／ケアマネジャー1 人当たり：38.0 件）
- ・事業活動収入：25,788 千円（対予算：2,472 千円，達成率：110.6%）
- ・地域別の割合：日吉 6：美山 4

【相談件数】 内訳 日吉 24 美山 7

相談ルート	包括支援センター	直接	医療機関	その他	計
件数	20	4	2	5	31

※月別(多い順に)・・・11月9件、1月8件

【支援終了件数】

事由	死去	入所	その他	計
件数	14	11	2	27

(2) 両事業所の今年度の傾向

- ・新規相談があがっても、すぐに終結となるケースがみられた。
- ・冬場となり体調を崩される方も多く、入院されるケースや ADL 低下に伴い区分変更申請を行うケースが増えた。
- ・介護予防支援においては、順次、直接契約に切り替えしている。
- ・施設の空き状態により、即入所となり支援終了となるケースもあった。

(3) 事業所の健全な運営と安定

- ・2024 年度介護報酬改定に沿い、法令遵守のもと事業を運営した。
- ・ほほえみかぐらでは、南丹市の運営指導を受け、業務の見直しができた。ケアマネジメントについて、大きな指摘事項はなかったが、書類の整備等について受けた指導については、ほほえみおいとも共有し、改善した。
- ・感染症対策委員会、高齢者虐待防止委員会を開催し、委員会の企画として研修会、訓練を行った。

(4) 様々な生活上の困難を支え合う地域共生社会の実現に向けて

- ・障害の特性に応じた各関係団体と連携を図り、介護保険制度を超えて支援方法を検討することができた。
- ・美山で開かれたサロンへの参加、地域ケア推進会議、ネットワーク会議等に積極的に参加した。
- ・相談支援部内の連携強化を目的とした「Ring プロジェクト」では、同じケースへのアプローチ方法を各事業所ごとに検討した結果をまとめ、共有した。それぞれの強みを活かした支援への切り口があることを学ぶことができた。
- ・法人内、事業所ごとに横のつながりを持ち、地域支援課、訪問介護事業所等とも情報共有や連携をはかった。
- ・認知症カフェ（おれんじスポットひよし）では、実行委員として活動を継続している。

(5) 特定事業所としての使命を担う

- ・小学校の福祉教育に参加し、福祉に興味を持ったり、理解につながるきっかけづくりを行った。
- ・他法人と共同し、事例検討会を行い、専門的知識を深めることができた。
- ・ふれあいいきいきサロンに参加し、利用者の思い等を聞き取ることができ、地域支援課職員に地域での課題解決の取組ができないか等を提案することができた。
- ・京都府の看取り研修では、研修委員として事例提供を行い、受講者と学び合う機会を持った。また、実務でもそれぞれのケアマネジャーが看取り支援として終末期に関わった。

※ 特定事業所 … 質の高いケアマネジメントを行っていると認められた、一定の基準を満たす事業所のこと

(6) 課題（今後に向けて）

- ・ケアプランデータ連携システムを取り入れているが、活用している他事業所が少なく、業務の効率化までには至っていない。
- ・BCP（業務継続計画）の机上訓練を行い、災害を意識する機会を持ったり、休日の連絡体制を整えている。今後も継続した訓練や計画の整備をしていく。
- ・外国籍の介護者家族を支援することもあり、言葉だけでなく文化の違いを感じながら暮らされており、提供する支援や伝え方に工夫が必要であると感じた。他にも障害や特性など様々な多様性に対応する力を身に付けていく必要がある。

2. 指定特定相談支援・障害児相談支援事業（相談支援事業所のひら）

(1) 実績 相談支援専門員 3 名（兼務 3 名）

① 指定特定相談支援事業

- ・計画作成件数 …… 195 件（1 ヶ月平均：16 件）

② 障害児相談支援事業

- ・計画作成件数 …… 67 件（1 ヶ月平均：5 件）

① ② 事業活動収入…4,394 千円（対予算：-1,305 千円、達成率：77%） ※一般相談の委託費を除く

③ 一般相談

- ・相談者数 …… 障害者 11 名、児童 9 名 / 支援回数：延べ回数 71 回
- ・相談内容 ……

健康・医療	0：回
福祉サービスの利用に関する相談	39：回
関係機関	25：回
不安解消情緒安定に関する相談等	1：回
家族関係・人間関係	2：回
家計・経済	0：回

4名はR6年度中に、9名はR7年度に一般相談から計画相談に移行予定。

(2) 業務の向上

- ・月1回の会議では、モニタリングや計画書の更新について確認しあい、困難ケース等の対応についてスキルの向上を意識した。
- ・療育支援勉強会への参加や事例提出をし、自ら学ぶ姿勢で参加をした。

(3) 連携

- ・南丹市相談支援事業所連携会議、障がい者ネットワーク会議に参加し、情報交換や南丹市内の各事業所の状況、地域課題を共有し、顔の見える関係づくりに努めた。
- ・基幹相談支援センターとは常に連携がとれる関係を維持し、利用者支援に活かすことができた。

(4) 課題（今後に向けて）

- ・専任の相談支援専門員を配置し、これまで築いてきた関係を強みに利用者支援を行っていく。

3. 地域活動支援センター事業・生活困窮者就労準備支援事業

（地域活動支援センター そよかぜ八木・そよかぜ日吉・そよかぜ美山）

(1) 実績

① 地域活動支援センター そよかぜ八木 登録者数：23人（平均通所人数：5人/日）

※年齢別割合 …… 60歳以上：34.8%、50～59歳：21.9%、40～49歳：30.4%、30～39歳：8.7%
20～29歳：4.3%

- ・そよかぜ土曜日（毎第1土曜日）の開催 …… 参加者：延べ 52人
- ・オープンカフェの開催 …… 参加者：延べ 135人
- ・みんなでランチ（月1回） …… 参加者：延べ 57人
- ・ストレッチ体操 …… 参加者：延べ 59人

② 地域活動支援センター そよかぜ日吉 登録者数：32人（平均通所人数：2.9人/日）

※年齢別割合 …… 60歳以上：25.0%、50～59歳：21.9%、40～49歳：12.5%、30～39歳：28.1%
20～29歳：12.5%

- ・みんなでランチ（月1回） …… 参加者：延べ 42人
- ・脳トレ …… 参加者：延べ 52人
- ・メイキング …… 参加者：延べ 47人
- ・DVD鑑賞 …… 参加者：延べ 18人

③ 地域活動支援センター そよかぜ美山 登録者数：16人（平均通所人数：2.5人/日）

※年齢別割合 …… 60歳以上：37.5%、50～59歳：31.3%、40～49歳：12.5%、30～39歳：0%、
20～29歳：18.8%

- ・そよかぜ土曜日（毎月第3土曜日）の開催 …… 参加者：延べ 67人
- ・みんなでランチ …… 参加者：延べ 53人
- ・絵画教室 …… 参加者：延べ 42人
- ・ティータイム …… 参加者：延べ 16人

④ 3センター合同企画 ※そよかぜ日吉で3月開催 「ホーバグルを使ったハンドマッサージ」 17人参加

(2) 業務の向上

- ・「みんなでランチ」を毎月開催し、登録者だけでなく方々とも交流の機会が持てた。
- ・家庭以外の落ち着ける場や相談の場として利用していただけるよう努めた。

- ・公式LINEで、「そよかぜ通信」・「行事予定」を発信した。

(3) 連携

- ・3月の3センター合同企画に京都太陽の園分場も参加を呼びかけ、4町の地域活動支援センターで活動することができた。
- ・八木では、チームオレンジの一員として、近隣の認知症独居高齢者支援を継続した。
- ・日吉では、オープンカフェに大学生のボランティアを招き、世代や環境を超えての音楽交流が行えた。
- ・美山では、今年度もそよかぜ土曜日に民生児童委員に参加していただき、そよかぜの広報ができたのと同時に、地域の情報交換も行った。

(4) 課題（今後に向けて）

- ・日吉では、就労継続支援B型事業所「ひより舎」内に、センターを移転し、より具体的な就労のイメージがもてるようにしつつ、社会との入口への最初の一步となるような居場所としての機能も強化していく。
- ・八木、美山について、専任の指導員の配置にて、より充実した内容で運営を行っていく。
- ・地域福祉コーディネーターと緊密に連携し、外に出かけにくい方へのアプローチを行い、地域の居場所としての活用をすすめていく。

生活支援の部

1. 訪問介護事業（介護保険サービス）・居宅介護事業（障害福祉サービス）

(1) ほほえみ八木訪問介護事業所

① 実績

※介護保険サービス・障害福祉サービスの合計

※合計[]内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	4,238	4,462	4,587	4,776	4,742	4,508
サービス提供数	1,163件	1,205件	1,124件	1,290件	1,196件	1,164件
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,472	4,157	4,498	4,028	4,094	4,559	53,121[28.7%]
1,191件	1,064件	1,105件	1,056件	1,040件	1,171件	13,769[12.8%]

② 成果・結果

- ・職員の役割分担を見直して再構築したことで、業務の効率が向上しました。その結果、サービス提供の実績が増え、利用者数も増加しました。これらの取り組みにより、年間を通じて安定した収入増加につながりました。
- ・終末期ケアの充実に重点を置き、在宅生活の継続を支援する体制を強化しました。その結果、利用者のご家族から高い評価をいただき、利用者の在宅生活をより一層支えることができました。
- ・職員体制の見直しおよび終末期ケア強化に伴い、スタッフ向けの研修を実施しました。この研修により、スタッフの意識が向上し、サービスの質も向上しました。
- ・スマートフォンを活用した記録システムの導入など、間接業務のICT化を推進したことで、業務のさらなる効率化を図ることができました。

③ 課題

- ・職員体制のさらなる強化と個々のスキル向上を図るため、人材育成や研修を通じて、サービスの質を一層高めていきます。あわせて、利用者の多様なニーズに応えるため、終末期ケアや在宅生活支援の体制も、より一層充実させていく予定です。
- ・引き続き、予算管理と経営状況の的確な把握に努め、事業所の安定した運営に注力してまいります。

(2) ほほえみかぐら訪問介護事業所

① 実績

※介護保険サービス・障害福祉サービスの合計

※合計[]内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	4,228	4,347	4,506	4,265	4,084	4,048
サービス提供数	985件	1,072件	985件	1,049件	923件	918件
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,253	4,173	4,032	3,828	3,647	4,131	49,542[-1.6%]
970件	951件	943件	875件	848件	873件	11,392[-10.4%]

② 成果・結果

- ・新規の受け入れおよび相談件数は、例年に比べて減少しています。さらに、入院や入所によるサービス終了が重なったことで、全体の実績も減少傾向にあります。
- ・既存利用者へのケアとサービスの品質向上に重点を置き、利用者満足度の向上を目指した施策を展開してきました。また、ヘルパー一人ひとりのスキル向上を目指し、職員研修の充実にも力を入れました。これにより、利用者のニーズに対する対応力が向上し、サービスの質が向上しました。

- ・これまで以上に関係機関との連携を密にし、新規利用者の獲得に向けて事業所の稼働状況など伝えるなど様々な工夫を実施しました。

③ 課題

- ・新規利用者の獲得に取り組んでいるにもかかわらず、サービス数は減少しており、その結果、厳しい状況が生じています。提供件数の改善に向けた対策を検討し、持続可能な経営体制を確立する必要があります。
- ・業務内容の見直しと経費節約が行われたとしても、サービス品質の維持が求められる。サービスの品質管理を強化し、経費節約措置とサービス品質のバランスを保つ方法を考える必要がある。
- ・スタッフの負担軽減策やワークライフバランスの向上を検討し、スタッフの健康とモチベーションを維持する方法を模索する必要があります。

2. 小規模多機能型居宅介護事業（地域密着型介護保険サービス）

(1) 小規模多機能ホームだんない [利用登録定員：1ヶ月あたり29人]

① 実績

※合計[]内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	5,361	5,380	4,977	4,156	3,906	3,985
利用登録人数	19人	22人	21人	19人	18人	18人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(平均)
4,355	4,449	4,358	3,990	4,779	5,629	55,325[-14.0%]
20人	22人	23人	25人	29人	29人	(22[-5.7%])

② 成果・結果

- ・職員のスキル向上を目的に研修を実施し、多様なニーズに柔軟に対応できる体制づくりに取り組みました。
- ・機械浴槽を新たに導入したことで、設備面の課題によりこれまで対応できなかった利用者の受け入れが可能となりました。これにより、利用者の多様なニーズに応えるとともに、受け入れ体制の強化を図っています。
- ・地域交流イベントを開催し、地域住民と事業所との交流をより一層深めることができました。

③ 課題

- ・利用者の相次ぐ入院・入所・死去により、上半期は利用実績が大幅に減少し、事業所の経営も悪化しましたが、下半期には新規利用者の獲得により持ち直すことができました。
- ・職員体制の見直しや業務全般の改善を継続的に進め、経営の安定化を図っていく必要があります。特に業務面においては、ICT機器を積極的に活用し、さらなる効率化を目指していきたいと考えています。

3. 通所介護事業（介護保険サービス）・生活介護事業（障害福祉サービス）

(1) ほほえみ八木通所介護事業所 [利用定員：1日あたり30人]

① 実績

※()内は、利用定員に対する利用率[稼働率] 介護保険事業のみ

※収入は介護保険サービス・障害福祉サービスの合計

※合計[]内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	7,743	8,382	7,994	7,877	6,930	7,708
利用延べ人数	720人 (89.4%)	751人 (89.8%)	702人 (90.8%)	742人 (88.8%)	674人 (80.0%)	722人 (93.3%)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9,005	6,519	7,019	6,832	5,075	7,326	88,410 [7.4%]
760人 (90.6%)	616人 (76.8%)	665人 (84.5%)	640人 (80.8%)	474人 (63.9%)	670人 (82.6%)	8,136[4.2%] (84.3%)

② 成果・結果

- ・職員体制の強化と新たな専門職員の配置により、これまで以上に専門性の高いサービスの提供が可能となりました。その結果、利用者様へのケアの質が向上し、より安心してご利用いただける環境が整いました。
- ・施設内のさまざまな箇所の修繕や新たな備品の導入を行ったことで、利用者の皆さまにこれまで以上に快適な空間を提供できるようになりました。今後も継続して設備や備品の改善に取り組み、快適性と心地よさのさらなる向上を目指してまいります。
- ・次世代を担う職員の育成も順調に進んでおり、効果的な人材育成が実現できています。

③ 課題

- ・機能訓練においては、利用者の多様なニーズに対応できるよう、トレーニングプログラムの多様化を検討する必要があります。また、訓練の効果を定量的に測定・評価するための方法を確立することも重要です。
- ・新型コロナウイルス感染症をはじめ、さまざまな感染症のまん延防止に向けた取り組みの強化が求められています。特に感染力の強い新型コロナウイルスやインフルエンザについては、従来以上に対策を強化するとともに、感染の流行状況に対して敏感に対応し、先手を打った対応が重要となります。

4. 児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業（障害福祉サービス）

(1) つくし園

① 実績

※合計[]内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	1,839	2,046	2,448	2,371	1,885	2,319
利用延べ人数	145人	161人	184人	184人	139人	176人
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,505	2,124	2,177	2,191	2,275	2,671	26,851[5.5%]
192人	160人	167人	166人	176人	209人	2,059[-2.6%]

② 成果・結果

- ・親子療育は継続して実施され、活動後の面談や対面報告、連絡ノート、電話連絡を通じて利用児の現状や支援内容を保護者と共有しており、保護者同士の交流を促進するために年2回のサロン活動も実施しています。
- ・市の相談事業や医療機関受診の同席を通じて関係機関との連携を強化し、五者面談で保護者が就学後のイメージを持てるようサポートしました。また、就学先選択に関する情報発信会を開催し、学校や放課後サービスとも連携して利用児の支援や過ごし方について情報共有を行いました。
- ・職員育成では、定期的な研修や事例検討を実施し、療育環境や子どもへの影響を考える機会を設けました。事例検討や他の療育教室の見学を通じて職員の理解を深め、就学後の卒園児へのサポートを通じて多角的な視点で支援できる職員育成の重要性を実感しました。
- ・子どもたちの社会参加の機会として、散歩や外出活動を通じて地域住民との交流を深めました。今年度は川辺地区防災を考える会にも参加し、協力体制について考える貴重な機会を得ることができました。

③ 課題

- ・個々の利用児のニーズに柔軟に対応する支援が求められます。特に、支援内容や方法が一律ではなく、個別に調整できる体制が必要となる場面があるため、更なるスキルと体制の強化が求められます。
- ・職員が多角的な視点を実際に身につけ、実践できるようにするためには、具体的な方法や支援が必要です。また、職員のスキルアップが現場で活かされるよう、定期的なチェックやフォローアップの強化が求められます。

④ 保育所等訪問支援事業について

- ・件数はわずかでしたが、利用者や保護者に寄り添いながら、丁寧な対応ができました。今後も、質の高い支援と丁寧な対応を基本に、事業を継続していきたいと考えています。

5. 就労継続支援B型事業・生活介護事業（障害福祉サービス）

(1) あじさい園【利用定員：1日あたり35人】

① 実績

※（ ）内は、利用定員に対する利用率〔稼働率〕

就労支援事業収入は除く。合計〔 〕内は前年度比増減率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	4,273	4,339	4,241	4,578	3,736	3,995
延べ利用人数 (73.3%)	539人 (73.3%)	554人 (75.4%)	519人 (74.1%)	573人 (74.4%)	441人 (70.0%)	503人 (75.6%)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4,400	4,175	4,071	3,859	3,284	4,159	49,110[8.5%]
582人 (75.6%)	523人 (74.7%)	519人 (74.1%)	479人 (72.0%)	414人 (73.9%)	523人 (74.7%)	6,169[4.3%] (74.0%)

② 成果・結果

- ・利用者は、クッキーの製造・販売やさをり織りといった生産活動に加え、八木駅の清掃業務にも取り組みました。これらの活動を通じて、地域社会への貢献や社会参加を実現しています。どの業務にも真摯な姿勢で取り組んでおり、それが一人ひとりの成長や自信の向上につながっています。
- ・生活面の支援においては、利用者一人ひとりの状態や課題を的確に把握し、それぞれのニーズに応じた専門的な支援を行うことができました。こうした取り組みにより、利用者が安心して過ごせる環境づくりや、自立した生活に向けたスキルの習得が着実に進められました。
- ・職員育成においては、定期的な研修やケース会議を通じて、職員のスキル向上と障害への理解を深めました。これらの取り組みにより、多角的な視点から支援できる人材の育成につながっています。

③ 課題

- ・利用者一人ひとりの生活状況や課題は日々変化するため、これらを継続的かつ正確に把握し、適切な支援を提供することが求められます。特に、状態の変化に迅速に対応できる体制の強化が重要です。
- ・個別支援に関わる職員が、利用者の多様なニーズに的確に対応できるよう、研修の充実やスキル向上の機会を増やし、支援力全体の底上げを図ることが今後の課題です。
- ・新型コロナウイルス感染症をはじめとする、さまざまな感染症のまん延を防ぐための取り組み強化が求められています。特に、感染力の強い新型コロナウイルスやインフルエンザに対しては、これまで以上に対策を徹底するとともに、流行状況の変化に敏感に対応し、先手を打った行動を取ることが重要です。

(2) ひより舎【利用定員：1日あたり20人】

① 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入(千円)	2,488	2,361	2,038	2,430	1,974	2,105
延べ利用人数 (82.1%)	345人 (82.1%)	330人 (78.6%)	282人 (70.5%)	342人 (77.7%)	281人 (78.1%)	301人 (79.2%)
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,550	2,274	2,285	2,074	2,003	2,160	26,742[1.0%]
360人 (81.8%)	322人 (80.5%)	325人 (81.3%)	292人 (76.8%)	284人 (78.9%)	318人 (79.5%)	3,782[3.9%] (78.8%)

② 成果・結果

- ・利用者は、定番となりつつあるパウンドケーキの製造・販売をはじめ、ひよりカフェ事業や各種の下請け事業にも意欲的に取り組みました。これらの事業活動を通じて、地域社会への貢献や社会参加を実現するとともに、利用者一人ひとりの成長や自信の向上にもつながりました。その結果、活動への意欲もいっそう高まっています。
- ・職員育成においては、定期的な研修やケース会議を通じて、職員のスキル向上と障害への理解を深めました。これらの取り組みにより、多角的な視点から支援できる人材の育成につながっています。

③ 課題

- ・職員体制の変更に伴い、一部において支援の質にわずかな影響が見られました。これを受け、利用者に提供するサービスの質を維持するために、新任職員への指導や研修を強化し、チーム全体のスキル向上に取り組んでいます。今後も、利用者一人ひとりに応じた適切な支援を提供できる体制の構築を目指してまいります。
- ・新型コロナウイルス感染症をはじめとする、さまざまな感染症のまん延を防ぐための取り組み強化が求められています。特に、感染力の強い新型コロナウイルスやインフルエンザに対しては、これまで以上に対策を徹底するとともに、流行状況の変化に敏感に対応し、先手を打った行動を取ることが重要です。
- ・利用者の高齢化や重度化が進む中で、高齢分野における特性の把握と支援方法についても検討が求められています。
- ・就労支援事業では自主事業の販路拡大や地域に向けての広報、また利用者の工賃維持などの取り組みを更に進めていく必要がある。

法人運営理念

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり

法人運営基本方針

〔住民との福祉の共創〕

すべての住民が支え合い、学び合い、福祉活動に参加できる地域社会を目指します。

〔福祉協働社会の構築〕

地域のあらゆる機関・団体と協働し、すべての住民が、心豊かで安全に安心して暮らせる福祉のまちづくりに、計画的に取り組めます。

〔選ばれる福祉サービスの提供〕

地域に密着した支援体制の整備・開発を提言・実施し、質の高いサービスを提供します。

南丹市社会福祉協議会 サービス精神

- 一、お客様にあくまでも満足していただくサービスを提供しなければならない。
- 一、サービスは、高度で専門的でなければならない。
- 一、サービスの提供は、的確にかつ迅速・効率的に行わなければならない。
- 一、常に、お客様の側に立って、助言を与えなければならない。

南丹市社会福祉協議会 職員心得

- 一、お客様にはいつもほほえんで、その場にふさわしいご挨拶をしよう。
- 二、どのお客様にも誠心誠意をつくして、丁寧かつ好意的な言葉と態度で接しよう。
- 三、お客様の様々な質問と要求には迅速かつ的確に答え、その場で答えられない問題は、自ら責任を持って回答を得るようにしよう。
- 四、お客様からの要求がなくとも、お客様のニーズを察知することによって問題を解決しよう。